

男女共同参画社会をめざす

# New Wave No.10

ニューウェーブ

平成15年(2003年)11月25日発行



- ・気づいていませんか？ジェンダー
- ・『気になるこの人』一育児休業

発行／横須賀市 市民部男女共同参画課

## 「育児休業は妻が取る？」

育休取得について夫と話し合いました。夫は「まさか自分が仕事を休んでまで育児」なんて考えてもいないし、社内でも男の育休は取りにくい環境にあり、取得すれば今後の昇進に影響があるようです。私も強く言えませんでした。今まで共働きでがんばってきたのに、突然自分だけが家で育児をすることに不安は募るばかりです。

厚生労働省が平成14年9月に発表した「少子化対策プラスワン」では、子供の生まれた男性のうち、育児休業取得率の目標を10%に設定しています。(平成13年取得率は0.33%) まずは男性が育休を取得しやすい環境づくりが必要です。短期間でも男性が育休を取得することにより子育ては社会全体のものという認識が広がるのではないのでしょうか。



## 「仕事・昇進は諦めるの？」

就職のとき、面接で「結婚したら会社を辞めるの？」と言われましたが、私は結婚しても働き続けました。後に妊娠したので、そのことを上司に報告すると「仕事を続けるのは難しいのではないかと暗に退職を迫られました。そんな言葉にはめげずに私は出産を終えて職場復帰しましたが、産休・育休のブランクのためにキャリアや能力を正當に評価されない気がするのです。

男女雇用機会均等法では、事業主が「妊娠」で退職を迫ることを禁じています。このような労働環境では子供を生まないでキャリアアップを目指す女性が増えるなど、女性はいつまでも仕事か家庭の二者択一を強いられるのです。仕事をする機会は男女平等に与えられているのですから男性と同様に女性のキャリアや能力を活かす環境がほしいものです。

## 「これってセクハラ？」

私の職場で、何かにつけ私の肩に手を触れる男性がいます。胸とかお尻を触らなければセクハラじゃないと思っているのかしら？「まだ結婚しないの？」と聞かれることは、日常茶飯事です。大きなお世話ですね。先日の飲み会とき、酔った勢いで男女関係をせまられました。陰でうるさい女だと言われたくないし、今後仕事しにくくなっても困るので黙っていますが、もしかしたら私に隙があったのかしら？

相手の言葉や態度であなたが嫌な気持ちになれば、それは「セクハラ」なのです。「イヤなことはイヤ」と言う勇気を持つことが大切です。社内に相談窓口が設置されていませんか？横須賀市には、性別による人権侵害に関する苦情申出制度があります。一度、男女共同参画課にご相談ください。



## 「どうして男ばかりが負担する？」

宴会のときの会費、男のほうを高くすることがよくあるんですよね。男はお酒を飲むからという人もいますが、飲まない男もいればよく飲む女性もいますし…。それにデートの費用だって男が持つべきなのではないか。これって女性蔑視というか半人前扱いしているように思うのですが、女性はそれでもいいのでしょうかね…。

会費同額、デート費用の割り勘…納得できないことは男女とも主張すべきです。それがジェンダーなき関係。ご馳走になって当然という女性がいるかぎり、いつまでたっても男女平等社会にはなりません。



「家事は  
人間ひとりひとりが  
する仕事でしょ！」

今日はゴミの日。朝、会社に向かう夫がゴミを出す。これって偉い？それともお気の毒？我が家にとっては夫がゴミ出しをしてもほめられることでも、かといってかわいそうなことでもないのです。だけど、世間の人には「お宅のご主人やさしいのね」とか「よくできた旦那さんね」と言われるんですよね。食事にしたって我が家では「お腹がすいた。さてごはんは誰が作る？」というのは当たり前前の会話なのですが、よそ様には不思議がられます。

ゴミが出るからゴミを出す。お腹がすくから作って食べる。この基本的な人間の生活にジェンダーがあるのはおかしいのです。家事を人任せにしている自立した人生を歩むことはできません。

## 「子育ては女の仕事？」

我が家は共働き夫婦。保育園の送り迎えに始まって、授業参観に毎回休みをとって行くのも、子供会活動に参加するのも、子供が問題を起こしたときに謝りに行くのもみんな私の仕事。二人の子供のはずなのに、夫は事ある毎に「お前の育て方が悪い」と非難するだけなのです。私にも仕事があります。それなのに満足に子育てができないという罪悪感は私にだけ募ります。どうして女だけが仕事と子育ての両立を期待されるのでしょうか。

母親はこうあらねばならぬというところから生まれる罪悪感は、実は隠れジェンダーなんです。子育ては男女双方に責任があるもの。2人で100%ではなく、2人で200%の子育てをしたいですよね。



# 気づいていますか？

## 暮らしのジェンダー・自分のジェンダー

「男らしさ/女らしさ」「男はこうあるべき/女はこうあるべき」という考え方は社会によってつくられたもの。  
それをジェンダーといいます。

ジェンダーが社会的につくられたものならば、私たちの意識のあり様ひとつで、  
男性も女性もジェンダーに縛られることなく多様な生き方が選択できる社会に変えることができるはずです。  
それぞれが違いを認め合い共に生きるジェンダーなき社会、男女共同参画社会をつくるためには、  
まずは暮らしの中にあるジェンダーや自分自身のなかにあるジェンダーに気づいて、  
変えてゆくための勇気を持つことが大切ではないでしょうか。

ここに書かれた事柄のうち、あなたには思い当たることがいくつありますか？

### 「暴力は男らしい愛の表現？」

恋人時代から夫はちょっとしたいさかいで私の頬を打つことがありました。男らしい振る舞いをする彼に好感を抱いていましたので、これも愛情の表現と思っていました。でも、結婚をして気づきました。気に入らないことがあると、すぐ暴力に訴える人だったのです。顔や体にアザができることもあり、人には転んだとかぶつかったと言ってごまかしています。だって、夫から暴力を受けているなんて恥ずかしくて言えませんから。

もしあなたがジェンダーに気づいていたら、彼のことを「男らしくて素敵な人」とは思わなかったのかもしれませんが。夫やパートナーが妻や恋人に対してふるう暴力を、ドメスティック・バイオレンス(DV)といいます。我慢をしたり、恥ずかしいなどと思わないで、暴力がエスカレートする前に、DV相談窓口に一度行ってみてはどうでしょう。デュオよこすか(婦人相談員) 046-828-8177

### 「子供を育て分けするつもりはないんだけど…」

娘には家事を当たり前のように教え、当然のように手伝ってもらっているけれど、ふと気づくと息子には何も教えていない。夫婦間や職場で嫌というほど男女差別を味わっているはずなのに、気づけば自分が家庭の中で役割差別をしていたなんて…。

無意識のうちにジェンダーを子育てに取り入れていることがあります。しかし日々の生活の中では、男の子と女の子の違いはないのです。男女共同参画社会をになう子供たち。ジェンダーなき生きる力を育もう！

# 気になる目の人

横須賀市役所 勤務 浅葉英之さん

育児休業が世に知られるようになって久しく、男性が取れるようになるなど昨今の育児に対する国の理解は目覚ましい。もちろん実際に法律の恩恵をフルに生かせるかどうかは別のお話ですが、ニューウェーブの「気になるこの人」は横須賀市役所財政部市民税課にお勤めの浅葉英之さんです。浅葉さんは市役所で育児休業を取られた男性の第一号です。前例のないところに前例をつくるという勇氣ある行動にであられた。この人「にスポットをあててみました。」

## フツターの男性が育児？

休日のスーパーや公園ではお父さんが家族といっしょにいる姿をよく見かけます。「亭主元気で留守がいい」と言われたのはもう過去のこと？それとも「家族サービス」という名のサービスマン？育児を約1年間取って2歳、4歳の2児の育児と家事に専念した浅葉さんにとっては決してサービスマンなどというきれい事ではなかったはず。子供2人がそれぞれあらぬ方向へ行ってしまう、ひとりか熱を出せばもうひとりも、などと思いつく苦労を総括してお察ししますと思いきや、開口一番「楽しかったです。」には驚き。「イライラもしましたよ。職場での勝手知った仕事をしているほうがよっぽど楽で、自分の時間も作れました」との本音に、やはり浅葉さんもフツターの人間だったと内心安堵。実はゴミ出しの時間に間に合わなくてプラスチックごみを2週間溜め込んだり、子供たちの朝食に卵かけごはんが続いたりしたこともあったとか。

## 現実の敵

男性が育児を取る際直面する問題は、職場の理解もさることながら、柱となる収入源が絶たれる経済的不安定や社会的地位の喪失、世間体などのバリヤーのため、法が許しても自分自身が許せないから取れないのだということです。「経済的にはかなり苦しかった」と言う浅葉さん。「経済的豊かさ」と精神的裕さは反比

例。そのまま仕事をしていればお金も入り昇給もする時間が無い。しかしお金より時間を優先させたら今までとは物事の見方が変わってささいなことに喜びを感じるようになったのだそうです。そして結果的に子供たちと一緒に時を過ごす大切さを身をもって知ったという。育児により金銭的豊かさでの価値観も大きく変わり、今まで捨てていたものを修理して使うようになったり、買い物に3千円という上限を設けたり、家庭菜園にも気合が入ったりと、連鎖反応で金銭感覚まで養われたそうです。現実の敵しさに試行錯誤しながら「小さな発見」を感じていたから前述の「楽しかった」という言葉が生まれたわけですね。

## 育児の価値、自分の価値

「小さな発見」。正直言って、育児や家事の最大の醍醐味を男性に見破られてしまった、という感じがしました。「仕事以外に自分の価値を見出せない男性にとっては育児だけで満足することはできない。だから男性が育児を取って育児に専念することは難しい。」と言う浅葉さんですが、女性が育児から価値を見出しているのかというと、これもまた疑問なのです。誰にとっても子育ては経験なのであって、その経験が教えてくれることがあると思うのです。もしかしたら子育てが常識化してしまっている女性の方こそ奥底の真理に気づきにくいのかも知れません。子育てに関して不器用にできている男性だからこそ気づいた喜び、価値

なのではないでしょうか？ 当たり前の生活に慣れてしまつと、大切なことを見逃してしまいがちですよ。男性の育児参加は女性にとってもいい起爆剤になるのかもしれない。

## 信頼

経済的困難を抱えてまで浅葉家に育児を続けさせた原動力はというと、浅葉さんは迷わず「ただ、自分の生活を何よりも優先しただけ。うちの夫はだめと最初からあきらめず、私を信頼して育児を任せてくれた妻の度量と理解なしではどうも務まらなかった」と語ります。育児という権利の行使は個人や家庭レベルのやる気の問題なのだとしたこと、そして周囲の応援というのは強い支えになるのだということを感じました。彼の言う「ただ、自分の生活を優先しただけ」とは、「今しかできないこと(育児)を今やっているだけ」という単純明快な生き方なのです。そしてそれは世間が作り上げた常識、固定概念、シエンダーなどから解放されて得た自由の何ものでもありません。周囲が変わるのを期待するのではなく、自ら実践することによって変化を受け入れてゆく浅葉さんの姿に、愛する者に捧げる遅れることなき愛と、今を生きる時の流れをも感じました。同時に、こうしたがんばる家族を積極的に支援する行政の制度が充実することを切に願います。



## 男女共同参画社会形成に向けた**国**の取り組み 行政相談委員制度

行政相談委員という仕事をご存知でしょうか。全国で約5千人、横須賀市では8人の方たちが総務大臣の委嘱を受け、それぞれの地域で活躍されています。

その主な仕事は、**国の行政に関する苦情や意見、要望を受け付け、その問題の解決や要望の実現を図るため、国民と国の機関との間に立って公正中立な立場から、あっせんなどを行う**ことです。

このたび、国レベルでの男女共同参画社会の実現に向けた取り組みの一環として、行政相談の仕事のうち、特に男女差別など男女共同参画に関する問題についての相談に応じるため、行政相談委員の中に「男女共同参画担当委員」という役割が設けられ、横須賀市では住岡和枝さんが総務省の指名を受けました。

**国や国の特殊法人**などの仕事で、男女共同参画に関することでお困りのとき、ぜひご相談ください。

※連絡先 住岡和枝

住所：横須賀市長坂 電話：856-1965

## 性別による人権侵害でお困りの方へ

男女平等専門委員

みなさん、「男女平等専門委員」の制度をご存知ですか？

横須賀市では、平成14年4月1日施行の横須賀市男女共同参画推進条例に基づいて「男女平等専門委員」という制度を設けています。

### ●どんなことについて申し出ることができますか？

・性別により人権が侵害されたか、侵害される恐れがあり、相手側に改善等を求めたい場合  
・市が実施する施策で男女共同参画の形成に影響を及ぼすと認められる施策について不服のある場合などが挙げられます。ただし、判決・裁決等により確定した事項、裁判所において現在係争中の事項など、実際に調査を行うことができない申出もあります。また、「市内で1年以内に発生した」事案が対象になります。

### ●どのように問題解決されるのですか？

申出者や関係者からお話をうかがい、調査の結果、必要がある場合、助言、意見表明、勧告、是正等の措置の要請などを行います。また、必要に応じて、関係機関に引継ぎます。

平成14年度実績 1件「民間企業で起こったとされるセクシュアル・ハラスメント」

平成15年度実績 1件「市立保育園における性別の固定観念に基づく指導について」

### ●申出書ってどこにあるのですか？

申出書は市役所男女共同参画課で配布しているほか、ホームページからもダウンロードが可能です。また、所定の申出書以外でも氏名、住所、電話番号、申出の趣旨及び概要、事案のあった日、申出日付、他の機関への相談状況を記入の上、「男女平等専門委員」あてに書面にて持参・郵送・FAXのいずれかの方法でお申し出下さい。

制度に関してのご質問も承っておりますので、まずは、横須賀市市民部男女共同参画課(822-8228)までお電話ください。

## 編集 後記

●男女共同参画に対する意識は高い方だと自覚していましたが、自分の中にある女であることへの「甘え」に気がつくよい機会になりました。 島田 真紀

●私にとって世間の常識ほど恐ろしい法則はない。そして私の常識ほど世間にとって恐ろしい法則もない。両方が同じ地球上で共存していくためには、そのとてつもない違いを「受け入れる」ほかに方法はなさそうだ。 小栗 房子

●一歩踏み出してみれば何でもないことでも、できないと思いつまんでいることが案外多いような気がします。まずわが身を振りかえるところから始めたいと思います。 吉川伊津子

●今回テーマについて考えると、なんだかんだといろいろ出てくるんですね。「男女共同参画」とは言っているけど、世間の意識の中では、「まだまだだなあ」って実感！いやはや奥が深いテーマ！！ 原田 早苗

●年と共に丸くなることをよしとするのですが、年に不足はない今、ジェンダーをなくすためには丸くなってはられないとあらためて思ったわけでして・・・ 鈴木しげこ

●新しい友達と編集会議。専業主婦歴30年の私、世界が広がります。一年間、とても楽しみです。 岡田みよ子

表紙の作品・イラスト 嬢央

◎ニューウェーブは公募による市民の方によって、企画編集を行っています。

皆様のご意見やご感想をお待ちしています。

横須賀市市民部男女共同参画課 〒238-8550 横須賀市小川町11 ☎046-822-8228

e-mail we-pc@city.yokosuka.kanagawa.jp

ホームページ <http://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/gender/>